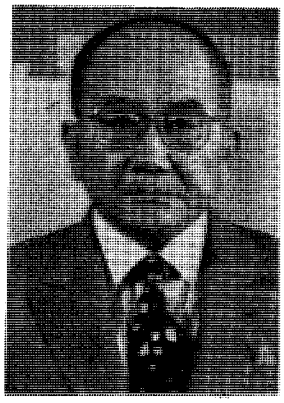
桜工会報

1974. 3　Vol. 22　No. 55　日本大学工科校友会



理工学部長就任祝賀会の挨拶

加藤　渉

本日は，総長先生をはじめ，川西副総長，本部の諸先生，並びに来賓の諸先生方のご臨席いただき，校友の方々にはお忙しいところ私達のために，このような会をお開き下さって，本当にありがたうございます。

唯今は，本部常任理事佐藤先生の励ましのお言葉をいただきましたが，前理工学部長木村先生の後任者としての私は，斯界の実力者，木村先生の業績を知っているだけに，どのようにしてよいか，色々と私自身決心にせまられる上にさらに若干のなやみをもっているのが，現在の私の心境でございます。

木村先生には，理工学部長在任中とくに留意なさっておられましたことの，一つに大学の民主化路線がございます。

私もこれから全力をつくしてやってゆきたいと思いますが，のちほどおそらくこのことにつきましては，木村先生から，この内容を詳細にお話下さると思いますので省略させていただき，大学についての私の所見の一端を申述べさせていただきます。

私立大学というものはどうあるべきか

ということにつきましては，私も一つの信念をもっております。それは，一芸に秀でた人材を育成すると云うことにつきると思います。今日の大学のすうせいは，世界各国におきましても，兎角大学は学業成績のよい学生が，優秀な学生であると云う考え方に支配されております。このことが若者達を，ひがませたり，ひずませたりしてきた，原因の一つではないかと思われます。

皆様もご承知のように，誰にも，どんな人にでも，一つぐらいは良い点が，ありましてその点を助長育成して，立派な人間形成に役立ててゆくことが，私学の特長であると信じてうたがいません。

今後このような考え方で大学運営に当らせていただきたく，私の決心を申述べました。

さらに社会情勢におきましても，今日は激変いたしていることは，申すまでもございませんが，私の感受する範囲におきましても，変革時代の感がございます。

あえて変革と申上げましたことにつき付言させていただきますと，白が黒，黒が白にと云うように，社会のようそうが非常に激しく移りかわっていることでございまして，このような社会変革に対応する大学は如何にあるべきか，非常にむつかしい諸問題をかかえていることは申上げるまでもございません。

理工学部といたしましても，慎重なうえに熟慮をかさねて，理工学部機構の上に改革を行ってゆきたいと考えます。

たとえばビッグ・サイエンス時代とも申される現在に対処するために理工学研究所につきましても，従来からございましたが，残念ながら余り活発な活動はいたしておりませんでしたので，今回から内部機構を改めて，環境委員会，海洋工学委員会，物性委員会，国土開発委員会と各種の委員会を作りまして，各学科のそれぞれの先生方によりより集っていただきその成果の充実を計るようにしたいと考えております。

ここで学部構成につきましても各科分離の姿の大学は古いと考え私自身も大学組織につきそのような考え方をもっておりますが日本大学の理工学部におきましても各学科をなくしてしまうことは困難なことでその手はじめとして理工学研究所をこのようなスタイルにかえた次第でございます。

最後に申上げたいことは，大学の財政についてでございます。皆様もご存知のように，今日の物価の上昇が，財政面に歪をもたらしてきていることは，申すまでもございません。物価の上昇にともなって，授業料を値上げすると云うわけには，まいりませず，非常に困難な情勢に立ちいたっております。とくに理工学部の如き，理系の学部におきましては，今日，当面する諸問題のうち，最も重大な関心事でございます。私といたしましても全力を傾注して，のりきる覚悟ではございますが，本日，お集り下さった，校友の皆様には，とくにお力添をいただきたく，お願い申上げる次第でございます。

この会を開いていただきました機会を得まして，私の所見とお願いを申述べましたが，さらに私の責任の重大さを痛感いたしております。

私達，大学に奉職するものは，すべて一心同体の姿勢で，理工学部の発展のため，努力をいたす所存でございます。

私達の意のあるところを，おくみとりいただいて，今後のご協力，ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげまして，私の感謝のことばにかえさせていただきます。

ありがとうございました。

文責　工科校友会副会長・電気部会会長・教授
升　谷　孝　也

編　集　後　記

○　桜工55号を支部特集号と企画いたしましたところ多数の支部のご協力により発刊に到りました。厚く御礼申しあげます。校友諸兄の各職場での活躍状態や定期的に催される懇親会の模様が想い浮び，肩を組んで歌う「若きエンジニア」の声が聞える感がいたします。

校友お互の活躍振りを知り合い，今後の友交懇親の一助となれば幸甚です。

○　石油危機に端を発した全般的なインフレ趨勢，種種の制約のため，経済成長率鈍化の傾向等，あらゆる産業構造の転換も，しんけんに考慮されなければならない状勢，我々科学者の使命は一層重きを感じます。

母校あっての校友であり，学校は校友あっての学校であります。今こそ，校友対学校は勿論，各学部々会相互，各支部相互間の協力を強め，建学の精神に基き，科学の力と不屈の意志を発揮し，世の為人の為につくす時だと考えられます。

○　母校理工学部では，斉藤前々部長につづいて二人目の校友の教授，加藤先生が理工学部長にご就任，各学部教室で先生方は卒業試験を終えホットする間もなく，入学試験の準備にご多忙中，今年の受験生も20,000名突破の模様。

○　昨年春の入学生の校友会入会金，社会人として，羽ばたいた卒業生の校友会終身会費納入の方に，財務委員長からの御礼を伝言すると共に未納の方の早期入会をお願いいたします。

○　部会活動の活発化を念じ，部会補助金の増額をも検討中，物価高騰に悩まされますが，諸兄の連絡機関誌として「桜工」の継続発刊に努力いたします。

御協力を切に願います。

校友諸兄の夫々の職場でのご健闘を祈ります。

（編集委員長）

■桜工会報■会誌委員／委員長中山隆（土木）／土木）・下青木秀吉，木村吉己／建築・丸田操，広瀬力／機械・両角豊志，黒瀬元雄／電気・高橋信夫，館和夫／化学・伊藤和雄／薬学・山内盛

■昭和49年3月25日印刷／30日発行■編集兼発行人／中山隆■発行／日本大学工科校友会（東京都千代田区神田駿河台1の8／電話東京293－3251内線206／振替・東京162710）■印刷／光星印刷株式会社